

小学生ボランティア新聞 ふろく 地域と共につくる縄文まつり

先生方へ
やまびこだより
No.144
今号の特集から

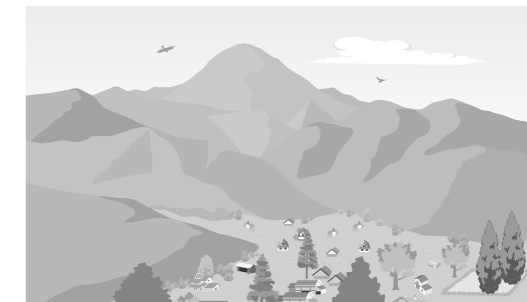
*本紙の特集事例をよりくわしく解説！あわせてご活用ください。

「さらしなの里縄文まつり」は 地域の人とみんなで創り、 みんなで楽しむお祭りです！

千曲市立 更級小学校



イメージキャラクター
リニユール25回を記念して



更級小学校は児童数164名(平成29年9月現在)、焼捨山伝説が残る冠着山の麓に位置する小規模校です。周辺には「田毎の月」として有名な焼捨の棚田があり、更級の地は古くから文化・伝説が残る地域です。

事例の概要

地域を盛り上げるお祭りに 学校行事として参加

毎年10月の最終日曜日に、千曲市にある「さらしなの里古代体験パーク」で地域住民と更級小学校が共に創るお祭り、「さらしなの里縄文まつり」が行われています。「地域を盛り上げるお祭りができないか」と住民の声から始まり、今年で25年目になります。当初は地域の方々で行っていましたが、平成18年からは学校行事として、全校児童がお祭りの企画から運営に関わっています。子どもたちは地域の方から教わりながら準備を進めます。準備から当日の関わりの中で地域の方との温かい交流が生まれます。

「『縄文まつり』は、子どもたちが地域の方に日頃の感謝を表す場でもあり、地域に誇りを持つきっかけになっています」と校長の児玉淳子先生は話します。

キャリア教育につなげる

縄文まつりをとおして「役割を果たす」「地域に誇りを持って生きていく」「将来に役立てていく」というキャリア教育にもつなげています。5年生の振り返りでは、「縄文祭りについて自分はどのよう取り組んだのか」「来年はどうしたいか」「そのために自分たちはどのような学習をしたらいいか」をグループで話し合いました。

子どもたちからは、「パンフレットを作りもっと広く配りたい」「車いすの方が入れないところがあった。どうしたらよいか工夫したい」など、多くの意見が出されました。今年のパンフレットには子どもたちの意見も反映されて、準備が進んでいます。

参加者としてだけでなく、企画から関わり自分たちの意見が反映されることで、子ども自身も「地域の一員として関わっている」という実感が持てます。誰もが楽しめるためにはどんな工夫ができるのか、自分たちには何ができるのか、子どもたちは体

験をとおして自然と学んでいるのです。

地域への恩返しとして

更級小では、信州型コミュニティスクールの立ち上げ以前から地域との繋がりが深く、様々な場面で地域の方が学校に関わっています。過疎化、少子高齢化が進むなかで、地域の方が「子どもは地域の宝」として、学校をバックアップしてきました。

「学校は地域に対してなにができるのかを考えたとき、子どもたちが更級のことが大好きで、この地域に誇りを持つことが地域への恩返しではないかと思いました。縄文まつりは子どもたちにとって、ふるさとの原体験として心に刻まれるはず」と児玉先生。「心のどこかで地域を想って、更級から離れてもいずれば帰ってきてほしいと願っています」。

郷土愛を持ったたくさんの大人たちにより、子どもたちの郷土愛も着実に育まれています。

更級コミュニティスクールの組織



朗読の会を通したつながりをいかして



主任児童委員だったことからコネット更級に関わり、朗読と子どもが好きだったので、自宅での朗読の会を始めました。朗読は、人前で話したり、プレゼンテーションの訓練にもなるので、子どもたちにとって役立つのかなとも思います。朗読の会を通して、地域の内外にいろいろな方々とのつながりができました。更級地区は、声をかければ「ああ、いいよ」と賛同して下さる方がたくさんいます。小学校には子や孫はもう通っていませんが、彼らもどこかで誰かのお世話になっていたんだらうなと思いつつ、今は地域コーディネーターをやらせていただいています。

支援ボランティアの方の声

子どもたちと
会えるのが
嬉しいのです！



地域コーディネーター
(コネット更級、読み聞かせの会)
野本洋子さん
毎週月曜日の朝の読み聞かせも15年以上
続けています。

協力：千曲市立更級小学校、コネット更級・野本洋子さん 参考：『信濃教育』第1550号(平成28年1月)

発行日：平成29年9月20日 発行：社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 地域福祉部 ボランティア振興グループ
〒380-0928 長野市若里7-1-7 TEL.026-226-1882 FAX.026-228-0130
E-mail vceneter@nsyakyo.or.jp URL http://www.nsyakyo.or.jp/



更級をあげての縄文まつりに 更級の一員として全校参加

千曲市立 更級小学校



更級の一員として
思いっきり楽しむのが
一番の役割です

50年ほど前、更級の地区で縄文時代の遺跡が発見され、それを保存するために「さらしなの里歴史資料館」がつけられました。これをきっかけに、みんなが交流し、さらしなの地域を盛り上げる行事をしようという話が住民から起こり、1992年に「さらしなの里縄文まつり」が始まって、今年度で25回目を迎えます。

更級小学校は、ふるさとの歴史や文化、人とのつながりを学ぼうと2006年から全校で参加しています。



縄文きび団子を地域の方と配る



6年生は最後のおまつりで、下級生をサポート

毎年10月の最終日曜日、さらしなの里古代体験パーク・歴史資料館を会場に開催。地元はもちろん、各地から3000～4000人が来場します。おまつりの体験活動はすべて無料。縄文時代を楽しく体感できます。

地域の人と体験コーナーを担当

準備も地域の人と一緒にします



火起こし体験のリハーサル

*これまでの縄文体験コーナーから

- 古代食体験(ふるまい) きびもち、縄文ハンバーグ、肉団子、イノシシの焼き肉、焼きいも、燻製、キビ甘酒、薬草茶
- 火おこし体験 ●弓矢体験
- 縄文編み物 ●まがたま屋
- 魚のつかみ取り ●石器ナイフ体験
- 縄文釣り ●キビ脱穀、縄文汁
- 立ち木倒し ●縄文土器野焼き

事前に各コーナーの地域の責任者の方が来校し、仕事の仕方などを子どもたちに教えます。これにより、地域の方の熱い思いと自分たちへの期待にふれ、子どもたちは、見通しをもち、意欲を持って、当日自分の役割に打ち込めるのです。



縄文編み物体験

毎年みんなが楽しみ。地域の人にとっても生きがいになっています。

大人になったら
長老の役を
やりたいな。



豊穰儀礼

各学年で受け継いでいる役割

- 1年生 縄文まつりで着る衣装を作成。
- 2年生 生活科の授業で育てた大豆を使って作った「縄文クッキー」を奉納。
- 3年生 お祭りの目玉、「芸能村」(ステージ発表)で日頃の学習成果(国語科、体育科、総合科)を発表
- 4年生 縄文時代の儀式を再現した「豊穰儀礼」の運営、縄文太鼓、係活動
- 5年生 縄文時代の儀式を再現した「豊穰儀礼」の運営、縄文太鼓、係活動
- 6年生 オープニング演奏、係活動



芸能村で学習成果を発表



縄文太鼓(ジャンベ)演奏

縄文まつりは、地域の方に日頃の感謝を表す場でもあります。

お客様ではなく、主体的に学ぶ学習機会として

クラブができた当初は、地域の方から指導を受けて石器を作ったり、縄文式の家に泊まる体験をしたりする「古代体験クラブ」の活動があり、縄文まつりには一部の児童が参加する程度でした。

当時学校長の石井智先生によると、「学校が地域に開かれ、特色ある教育を求められている中、校風をつくり出してきた地域を基盤とする教育こそが「特色ある教育」である」と考え、全校参加を決断。

「お客様」ではなく全校児童が故郷の歴史、文化、伝統、人と人とのつながりを主体的に学ぶ良いチャンスとして、縄文まつりを継続してきた故郷さらしなのを在校中の6年間学び続けることがふさわしいと考え、「総合的な学習」に位置づけました。

参考:『里と人にいやされるさらしな・縄文からのメッセージ』さらしなの里縄文まつり実行委員会編著



「古代体験クラブ」は、今年度「縄文人クラブ」として復活

古代体験パークの学芸員さんの指導で勾玉づくり

縄文まつりは、子どもたちにとって地域に誇りを持てる楽しい原体験と なっています。

更級コミュニティスクールの取り組み「更級の子どもは、更級で育てる」

つながりで学ぶ子、生まれ育った更級に誇りを

子どもたちの郷土愛(更級に誇りをもつ子ども、更級のためになにができるか考えられる子ども)を育むこと、さらには更級地域の地域力向上を図ることを願い、「更級コミュニティスクール」を設立、推進しています。

更級の地域は、「地域の子どもを地域で育てる」という理念のもと、学校を支える「コネット更級」という団体を中心に、平成14年ごろからボランティアによる支援活動が盛んに行われてきました。

学校支援ボランティア 主な活動

学習支援

- 国語科: 書写の指導、読み聞かせ
- 算数科: 珠算や九九などの指導
- 社会科: 更級の歴史や地理
- 理科: 更級の自然
- 音楽: 和楽器や合唱指導
- 英語科: 指導など

環境整備

- 校内の花壇・植木の手入れ
- 校庭の整備
- 芽有林の整備など

地域子育て教室

- ① スポーツ教室 (マラソン、チャレンジラン、冠着山登山など)
- ② 読み聞かせ・読書教室 (朗読の会、父母の読み聞かせ学習会)
- ③ 郷土の歴史・文化・産業教室 (豆腐・みそ造り体験、棚田での米作りなど)
- ④ 家庭学習・課題支援教室 (宿題・夏休み自由研究支援、書き初めなど)
- ⑤ 放課後子ども教室 (子どもの居場所づくり、集団遊び)
- ⑥ 子ども遊びとつけ教室 (育児相談・育児支援)

クラブ活動

- 陸上・マレットゴルフ・バドミントン・郷土料理・茶道・工作など

安全・見守り

- 登下校の安全・見守り
- 安全教室
- 子どもの安全を守る会などの活動



学校運営協議会



夏休みわくわく教室



マレットゴルフ(クラブ活動)



地域の方主催の交通安全教室



棚田の米作り



花壇づくり



朗読劇「嫉妬伝説」を地域の人と共演



親子で学ぶ陸上



6年生が1年生に読み聞かせも

コネット更級、更級の里友の会、読み聞かせの会、おやじの会、子どもの安全を守る会など、地域に根ざした各団体が支援。

学校目標を地域の人と共有することが大切です

更級小学校では、コミュニティ・スクールを導入する前から地域とのつながりがあり、土台はありました。地域と学校の風通しがよいので、なにかあっても話し合いができる関係になっていると思います。今後、学校以外で学習に関わることにどんどん入っていただくような工夫ができればいいと思っています。



更級小学校 校長 児玉淳子 先生

コミュニティスクールにおいて大切なのは、学校目標を地域の人と共有することです。「更級の子どもをみんなで育てよう」という思いを共通認識として必ず確認し合います。まずは、学校に来ていただき直接お話しをするなど、事前の打ち合わせには時間をかけています(全体会は年2回、コーディネーターの会は学期ごとに開催)。

地域コーディネーターからのご提案で、学校がどんな取り組みをしているのか、全戸配布でおたよりを作成しています。子どもが卒業して学校と接点なくなったら関係がなくなるのではなく、いつも地域の子どものことに関心を持っていただき、地域全体に学校の取り組みを知ってもらうことが「地域の子どもを地域で育てる」ことにつながるのではないのでしょうか。

学校も地域も双方が高め合い、お互いが気持ちの面で豊かになるような活動をしていきたいと思っています。